

市シルバー人材センター

一針一針心を込めて

NPOあつとに子ども用マスク100枚

山口市シルバー人材センター(城市正幸理事長)は18日、NPO法人あつと(藤井智佳子代表理事)に手作りの子ども用マスク100枚を寄贈した。同法人が西門前商店街内で運営している地域子育て支援拠点「ほっとさくらん西門前でとと」を利

用する親子に配られる。同センターの手芸グループ「花もめん工房」が、新型コロナウイルス感染予防のため、当初は会員用に作っていたところ、

子ども用の注文が入るようになった。市中のマスク不足は解消されつつあるが、子ども用が足りていないことを知り、寄贈を決めた。



マスクを受け取る子どもたち(ととでとと)

この日は、城市理事長、同工房代表の品川明美さんらが「ととと」を訪れ、施設内で遊んでいた子どもたちに手渡した。マスクはさらしとガーゼで作られており、耳が痛くならないようにひもの長さが調節できるようにになっている。子どもたちは早速着け心地を確かめていた。藤井代表理事は「本心に助かる。夏用マスクとして大切に使用させていただきたい」と話した。城市理事長は「手芸が得意な会員20人による発足18年目のグループで、マスク不足を手作りで何とかしようと取り組んでいる。1日に仕上がる枚数には限りはあるが、一針一針に思いを込めて作った成果」とシルバーの力をアピールした。

(古重)